

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problems Mailbox.**

## ⑪ 公開特許公報 (A)

昭59-2896

⑫ Int. Cl.  
B 41 N 1/24  
B 41 M 5/26

識別記号

102

庁内整理番号

8205-2H  
6906-2H

⑬ 公開 昭和59年(1984)1月9日

発明の数 1

審査請求 有

(全 4 頁)

## ⑭ 感熱孔版原紙用多孔性薄葉紙

⑮ 特 願 昭57-111815

⑯ 出 願 昭57(1982)6月30日

⑰ 発明者 青山康一

静岡市用宗巴町3番1号株式会  
社巴川製紙所技術研究所内

⑱ 発明者 松永春夫

静岡市用宗巴町3番1号株式会

社巴川製紙所技術研究所内

矢野晴彦

静岡市用宗巴町3番1号株式会

社巴川製紙所技術研究所内

⑲ 出願人 株式会社巴川製紙所

東京都中央区京橋一丁目5番15

号

## 明細書

## 1. 発明の名称

感熱孔版原紙用多孔性薄葉紙

## 2. 特許請求の範囲

(1) 断面が円形又は円形に近いポリエスチル織維を50重量%以上含むことを特徴とする感熱孔版原紙用多孔性薄葉紙。

(2) ポリエスチル織維の太さが0.3～4デニールである特許請求の範囲第1項記載の多孔性薄葉紙。

(3) ポリエスチル織維の長さが2～10mmである特許請求の範囲第1項記載の多孔性薄葉紙。

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は感熱孔版原紙に用いる多孔性薄葉紙に関するものである。

感熱孔版原紙は一般に、高分子フィルムと多孔性薄葉紙を接着剤にて貼合せた形のものが用いられており、多孔性薄葉紙としては、従来より韌皮織維間ち、こうぞ、みつまた、マニラ麻、亞麻、

履皮等を原料としたものが使用されている。これらの多孔性薄葉紙は、織維の断面が偏平であり、フィルムと貼合せた場合、偏平な面がフィルム面と接着し、光透過性を極めて悪くし、その結果穿孔特性も悪化する。又、織維の断面や織細度も不均一なため、均一な多孔性薄葉紙を製造することは難しいという欠点がある。

本発明は、上記した従来の感熱孔版に用いられる多孔性薄葉紙の欠点を改良し、フィルムの穿孔性がよくかつ穿孔部よりのインクの通過がスムーズであり、印刷文字が鮮明であるような多孔性薄葉紙の提供にある。即ち、本発明は、断面が円形又は円形に近いポリエスチル織維を50重量%以上含むことを特徴とする、感熱孔版原紙に用いる多孔性薄葉紙に関するものである。

以下本発明について詳述する。本発明における多孔性薄葉紙はポリエスチル織維単独あるいはポリエスチル織維と他の天然あるいは合成織維の混抄であり、ポリエスチル織維の好ましい特性を出





